

## 【北杜市】 1人1台端末の利活用に係る計画

### 1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

北杜市総合計画では「2030年、地域のありたい姿」を実現するために、5つの行政部門別に21本の施策（大）と58本の施策（中）を設定し、そのひとつに「時代に即した教育環境の整備」を挙げている。また学校教育に関する施策としては、「原っぱ教育」推進に注力し、“情報活用能力を育てる教育”を推進の観点のひとつにしている。さらに北杜市立小中学校教育情報化整備計画で基本方針を下記のとおり掲げている。

“すべての北杜っ子が、北杜市の自然、文化、歴史、伝統を守りながら、これからの社会を生き抜く力を身につけるために、学びの道具としてICTを活用できる姿を目指す”

上記のように児童生徒がICTを1つのツールとして自発的に活用できる能力の定着を図るため、学校教育現場でICT機器を用いた情報収集や、デジタル教材を使用した自発的学習、学習者間で意見の共有や情報伝達・プレゼンテーションを実施する等、ICTを活用した個別最適な学びと、協働的な学びの実現を目指している。

### 2. GIGA第1期の総括

インフラ面では、北杜市は平成30年度に学習系無線LANの導入、また令和2年度までに1人1台端末の整備、およびデジタル教材、情報共有アプリの導入が完了し、GIGAスクール構想にかかるICT活用が始まった。

導入後に通信速度の問題が顕著化したが、令和5年度に学習系無線LANの増設を実施し、通信の安定性を向上された。また、1人1台端末については耐用年数が近づくにつれて動作が重くなる現象が見られるようになった。今後は機器のスペックだけでなくOSや利用するアプリケーションも精査し、安定的にICT教育が提供できる環境を構築していく。

運用面では上記インフラ面での不具合がある中、教職員の方々の創意工夫によりデジタル教科書を用いた授業や、デジタル教材やプレゼンテーションソフトを活用した個別最適な学び・協働的な学びの提供を実施し、ICTの利活用が定着している。

課題としては教職員の中でもICT活用技術の差が拡大傾向にあることや、日々進歩する情報セキュリティ対策の情報共有不足が挙げられる。ICTは活用するうえで有識者だけではなく教職員全員が知っておかなければならない基本知識が存在するため、知識提供や技術の定着を図るため、積極的な情報共有や自発的に情報収集する意識改善に取り組む必要がある。

### 3. 1人1台端末の利活用方策

以下の利活用を推進している。

#### ○自発的な学習ができる環境整備

デジタル教材を用いた学習を定着させ、回答結果から自身の傾向や対策を自身で知り、自ら自発的に学習を進めていける環境を構築し、児童生徒の主体性向上を図る

#### ○情報共有ツールを用いた意見交換、情報共有の実施

情報共有ツールを用いて学習者同士の意見交換、プレゼンテーションツールを用いた情報伝達に活用することで、社会性、協調性、プレゼンテーション能力の向上を図る。

また学習だけでなく委員会活動や教育相談等にも活用し、児童生徒の学校生活を支援していく。

#### ○採点の自動化

教科によってはオンライン試験の実現により自動採点が可能と考える。紙だけでなく ICT 機器も活用したテストの運用を行い、ペーパーレス化や効率化を進め、業務効率向上により生徒と向き合う時間の確保を行う。

#### ○音声・動画による学習支援

従来の教科書の「文字」や「画像」だけでなく、「音声」や「動画」による視覚や聴覚を活用した学習体制の整備により、より勉強効率の向上が図れる。

#### ○学校以外での授業の提供

療養や不登校等特別な事情により学校に来られない児童生徒にもオンライン授業やオンライン試験を実施することで、切れ目のない授業支援を実施する。

#### ○外国人児童生徒への学習支援

ICT 機器の通訳・翻訳機能等を活用し、日本語に慣れない児童生徒も学習・生活を支えるツールとして活用する。